



第74回奉献乾海苔品評会が開催されました！

【水産漁港部】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1



海岸林再生の碑が建てられました

【林業振興部】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2



株式会社仙台秋保醸造所が日本農業賞「食の架け橋の部」優秀賞を受賞！

【農業振興部】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2



山元町の「株式会社一苺一笑」が農林水産省経営局長賞を受賞しました

【農業振興部（亘理農業改良普及センター）】・・・・・・・・・・・・ 3



水稲乾田直播栽培勉強会「総合検討会」を開催しました

【農業振興部（亘理農業改良普及センター）】・・・・・・・・・・・・ 3

第74回奉献乾海苔品評会が開催されました！

▶水産漁港部



恒例の「奉献乾海苔品評会」の審査会が、令和4年1月6日に JF みやぎ塩釜総合支所で開催されました。この品評会は、乾海苔の品質と漁業者の生産意欲の向上を目的に、昭和23年に第1回が開催されて以来、74回目の開催となります。審査会は例年、鹽竈神社で開催されていましたが、今年は昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染対策として、3密を避けるため、会場の広い JF みやぎ塩釜総合支所で開催されました。今シーズンの海苔は、海水温の低下が例年よりも遅れたことや、漁場の栄養塩の不足もあり、生育の不良や色落ちが心配される状況にありましたが、12月上旬頃から海況が好転し、色・艶ともに優れた海苔が多数生産されています。

審査会には、県内の生産者から100点の出品があり、厳正な審査の結果、優賞に JF みやぎ七ヶ浜支所松ヶ浜地区の星兵喜さん、準優賞には JF みやぎ仙南（亘理）支所の菊地幹彦さんが選ばれました。表彰式が1月11日に鹽竈神社で開催され、星さん、菊地さんに表彰状が手渡されました。優賞・準優賞となった乾海苔は2月に皇室に献上される予定です。



▲ 優賞・準優賞の乾海苔



▲ 乾海苔の審査の様子

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災による津波により、宮城県の海岸林は壊滅的な被害を受けました。海岸林はその多くが保安林に指定されており、海からの飛砂や潮風を防止するなど、重要な役割を担っています。仙台湾沿岸地区（仙台市・名取市・岩沼市・亘理町・山元町）の約 650ha に及ぶ海岸林は国の直轄事業や民間団体の協力を得て順調に進められ、令和 2 年度に復旧が完了しました。

名取市では（公財）オイスカと名取市海岸林再生の会が国・県・市と協定を締結し、海岸林の植栽を進めてきました。再生の会は区域面積 103ha, 37 万本の植栽完了を機に、令和 3 年 7 月 21 日に「海岸林再生の碑」を建立しました。

この石碑に刻まれている碑文は、震災による被害の状況、海岸林の復旧状況などの事実が記されており、この土地で起こった事実を後世の人々へ語り継ぐ貴重な史料として、残り続けることが期待されます。



▲ 建立された「海岸林再生の碑」



▲ 海岸林の状況（名取市）

株式会社仙台秋保醸造所が日本農業賞「食の架け橋の部」 優秀賞を受賞！

株式会社仙台秋保醸造所代表の毛利親房氏は、東日本大震災で途絶えた宮城のワイン産業復興と地域再生の思いで、一念発起して一からブドウ栽培とワイン造りに取り組み、その後県内に 5 カ所のワイナリーが開設されるなどの波及効果をもたらしました。

また、「人、食、風景、文化」というキーワードを軸に、テロワール(風土と人の営み)とマリアージュ(食と酒のペアリング)を掛け合わせた造語「テロワージュ」を提唱し、秋保温泉の旅館とタッグを組むほか、宮城県内の酒蔵や工芸作家、行政機関も巻き込み、東北全体を盛り立てる様々なイベントを開催してきています。

今回の受賞は、「人・地域・文化・産業をつなぎ、はぐくむワイナリー」を目指した実践的な経営が、様々な人や資源を結びつけ、豊かな地域社会づくりに大きく貢献されたとして評価されたものです。今後、さらに「ワイン」を通じた地域振興に広がることが期待されます。



▲ 毛利親房氏



▲ 収穫間近の醸造用ぶどう

山元町の「株式会社一苺一笑」が農林水産省経営局長賞を受賞しました

▶農業振興部（亙理農業改良普及センター）



株式会社一苺一笑が、令和3年度全国優良経営体表彰の「働き方改革部門」において、農林水産省経営局長賞を受賞されました。本部門は、生産性が高く、人に優しい職場環境づくりの取組に優れた農業者を表彰するものです。

株式会社一苺一笑では、いちごの生産に加え、観光農園や6次産業化等、多岐にわたる事業を展開しており、ICTを活用した生産効率向上、農福連携、従業員が働きやすい労働環境の改善、地域の後継者育成等の先進的取組が高く評価されました。

令和3年12月24日（金）には、宮城県庁において農政部長より賞状等が伝達されました。

今後も農業経営が発展し、地域の活性化に向けて益々御活躍されることを祈念いたします。



▲ 宮川農政部長と記念撮影する佐藤代表（右）

水稲乾田直播栽培勉強会「総合検討会」を開催しました

▶農業振興部（亙理農業改良普及センター）



令和4年1月18日に岩沼市を会場に、次期作に向けた意見交換の場として、水稲乾田直播栽培勉強会「総合検討会」を開催し、農業者や関係機関等計40名が参加しました。

乾田直播（かんでんちょくは）栽培とは、水稲直播栽培の一種で、苗を移植するのではなく、乾いた状態の田んぼに直接種を播きます。移植栽培とは異なり育苗や代掻きをしないことから、作業の省力化や田植え等との作業時期の分散を図ることができるため、震災後経営規模が拡大している法人を中心に、徐々に広がりを見せています。一方で、雑草防除や施肥において移植栽培と異なる管理が必要であり、移植栽培と比べて減収する事例もありました。そこで、亙理農業改良普及センターでは、令和元年度に「乾田直播栽培勉強会」を立ち上げ、技術改善に向けて、定期的に現地検討会等で意見交換をしてきました。

検討会の前半では、普及センターから生育調査結果について説明した後、古川農業試験場と東北農業研究センターから講演をいただきました。東北農業研究センターからは、苗立ち数を確保するためのほ場づくりのポイントや、生産コストを下げるための要件等について説明がありました。

後半では、参加した農業者から今年作の反省点等についての話があり、それに対して研究機関から、改善のための具体的な助言をいただく等、活発な意見交換がなされました。

亙理農業改良普及センター管内では、来年度も乾田直播栽培作付面積が増加する見込みであり、今後も重点的に支援を継続していきます。



▲ 水稲乾田直播栽培勉強会「総合検討会」の様子